

松川村 村長 須沢 和彦 氏

日本一暮らしやすい村への挑戦

当社がご提案した熱エネルギー供給事業を採用いただきました、長野県北安曇郡松川村 村長の須沢 和彦氏に松川村の魅力や課題への取り組み、そして熱エネルギー供給事業を採用するに至った背景についてお話を伺いました。



松川村の魅力や課題について教えてください。

松川村は雄大な北アルプスの麓に位置し、安曇野の原風景を残す村として、四季折々の美しい景観、特に春先の水面に映る花や雪に覆われた山々など、豊かな自然環境が魅力といえます。また、住環境の魅力として、まずは子育て支援が充実していることが挙げられます。前村長の代から「子供は村の宝」というキャッチフレーズのもと、様々な子育て支援をしてきました。一例ですが、小中学校の給食費完全無償化、それから18歳以下の窓口での医療費の完全無償化などが既に実現しています。その結果、周囲の市町村や県外の若い世代の方が松川村に家建てて、終の住処に選んでいただいているという状況が生まれています。一方、農家の方々が農地を維持してくださるおかげで、この安曇野の原風景を今に残せていると思いますが、これから先の農業の担い手をいかに育てていくかが課題のひとつです。また、日本全体で見れば人口が減少していく中で、松川村はこの2年間は人口が増加していますが、将来、人口が減少しても、持続可能な行政を実現するための仕組みを構築するのが村長としての課題だと認識しています。



村長として大切にされていることについて教えてください。

私の目標は、松川村を日本一暮らしやすい村にすることです。例えば、子育て支援が充実していても、年を重ねるとこの村では不安だというのでは暮らしやすい村とはいえません。そこで松川村では社会福祉協議会にお願いして「りんりん号」というバスを運行しています。登録して予約をしてもらえば、自宅から目的地まで無料で送り迎えします。また、乗り降りや荷物の持ち運びに不安がある方のために、2025年11月からは全ての便に添乗員が同乗するようにしました。さらに、特にお年寄りの方は早くから外で待ってくださる方も多く、寒い日や夏の暑い日に外で待って体調を崩してはいけないと思い、到着前に添乗員が利用者に電話をするという取り組みも始めました。村長として大切にしていることは、子育て支援からお年寄りへの支援まで、村民の皆さんにバランスよく安心をご提供するということかなと思います。



「りんりん号」 <https://www.matsukawa-shakyo.jp/pages/60/>

当社がご提案した熱エネルギー供給事業が、2026年1月に松川村老人福祉プラザ「松香荘」でスタートしました。この事業は松川村にとってどのような意味を持つのでしょうか。

各自治体が脱炭素に向けた計画を立案されていると思いますが、号令だけではなく、きちんと実行して村民の皆さんにも松川村の脱炭素に向けた姿勢を見せていかなければなりません。そういう意味で、村民の皆さんが集う松香荘で熱エネルギー供給事業がスタートしたのは大変意義深いと考えています。

今から50年以上前になりますが、私が子供の頃は薪を燃やして沸かすお風呂でした。今はスイッチひとつでお湯が沸きますが、大変な苦勞をして沸かしたお風呂もそれはそれでよいものでした。松香荘には温水プールとお風呂がありますが、そのお湯を地元の資源である木材を活用した木質チップで沸かすというのは、古き良き時代も思い返してもらえるのではないかと思います。



熱エネルギー供給事業は、松川村、北アルプス森林組合そして極東開発工業との協働事業となりますが、このようなスキームにどのようなメリットを感じておられますでしょうか。

貴社からの提案が、補助金の活用ありきの提案であれば、実現は難しかったかもしれません。また行政としては、初期投資、それから事業がスタートしてからのランニングコスト、トラブル時の対応が導入を決断するかどうかのポイントとなりますが、貴社は、これらのリスク要因に丁寧に寄り添ってくれて解決策を提示してくれたという点が大きいと思います。

北アルプス森林組合については、松枯れの対策として松の伐倒や燻蒸の作業を以前から継続して取り組んでもらっていました。そのようにして守ってきた森林資源を使って終わりにするのではなく、北アルプス森林組合で枝も含めてチップ化して、燃料として活用していく。そのような循環のフローチャートが見えるというのが画期的なスキームであると思います。



熱供給事業者として極東開発工業に期待することは何でしょうか。

事業がスタートした時は、設備も新しく順調に進むと思うのですが、時間が経過すると想定外のトラブルが起こるかもしれません。貴社にはそのようなトラブル時の適切な対応を期待しています。



最後に、村民の皆さまへのメッセージがあればお願いします。

最近の夏の猛暑は皆さんも体感されていると思いますが、これまでとは季節感が大きく変わり、地球温暖化問題は喫緊の課題であると認識しています。松川村としましても、予算には限りがありますが、松川村だけで実現できない課題は民間企業の皆さんと力を合わせて、少しでも前へ進みたいと考えています。

村民の皆さまも、普段の生活の中で、ごみの分別や食品ロスを減らすなどちょっとした気遣いで実行できることもあると思いますので、そのようなことを実践、継続していただければと思います。

ともに協力しながら取り組みを進めていくことができれば、より良い未来に繋がると信じています。ぜひご協力をお願いします。



信州安曇野 松川村 <https://www.vill.matsukawa.nagano.jp/>

編集後記

インタビューでは、須沢村長の「松川村を日本一暮らしやすい村にする」という強い想いを感じることができましたが、特に印象に残ったのはその想いを実現するための実行力です。紙面ではすべてを取り上げることはできませんでしたが、日本一暮らしやすい村の実現のために様々な施策をスピード感をもって実行されている姿は、まさに理想のリーダーであると感じました。

これからも当社はステークホルダーの皆さまと協働し、より良い社会づくりに貢献できるよう活動して参ります。